

# 神迎の道

KAMIMUKAENOMICHI

稲佐の浜から  
勢溜へと続く神迎の道。  
神話や伝統文化を伝える  
スポットがいっぱい。

## 1 神楽殿の大しめ縄

神楽殿に飾られている大しめ縄は、長さ13メートル、重さ4.4トンあり日本一の大きさを誇っています。しめ縄は稲わらでできており、神様と人間界との境界を表しています。出雲大社の不思議として古代から言われているのは、全国のしめ縄と違い、緋い始めの太い部分が神社に向かって左側にきていることです。全国の神社とは逆になっています。

## 2 神迎の道

旧暦の10月、全国の神々が出雲に集まられます。神々は神籬(ひもろぎ)に選んで稲佐浜から神迎の道を通り勢溜に至り正門からお入りになります。この神様がお通りになる道を神迎の道と言います。地元の人には青竹の潮波雅(なが)を持ってお慰みさん参りをします。「忌」という文字は、本来「清浄な」、「身を清め慎む」という意味であり、神在祭の間、地元の人々は身を清め静かにしているのが習わしです。



## 7 於国塔

出雲阿国を顕彰したいという歌舞伎界の思いと地元の人々の協力により昭和11年に完成しました。奉納山中腹にある公園に石塔があります。阿国塔の文字は、首相となった近衛文磨によるものであり、それを開く石欄に著名な歌舞伎役者や芸能人の名前が刻まれ「歌舞伎の始祖」という阿国の偉業を称えています。芸能界での成功を目指す人は阿国のレリーフに触ってお祈りをします。

## 8 上の宮

毎年旧暦の10月に全国の神々が集まれ、神議(かむはかり)神様による会議(ごんぎ)をされますが、その会議場がこの社です。出雲大社の本社で主祭神はスサノオ神と八百萬神(やおよろずのかみ)です。特に神々は緑結びについて協議されるといわれています。

## 9 屏風岩

稲佐浜から50メートルくらい入った山手に屏風を立てたような岩があります。この岩除で大国主神が「国譲り」の話合いをされたと言われています。大国主神は「国を譲る代わりに「私のすみかとして高天原の大神の御殿と同じように太い柱を立て、千木が大空に突き出ているような立派な御殿を建てて欲しい」と言われます。これが、出雲大社が巨大な神殿となった由緒とされます。



### 豆知識

大社地域には、毎月1日の早朝、稲佐の浜で海水を汲み、持ち帰って身を清める「潮汲み」という風習があります。神迎の道の民家や商店では、この「潮汲み」に使う籠(たが)に山野草などを活けて軒先に下げ、さざやかなおもてなしの心を表しています。



## 5 出雲阿国の墓

出雲大社の西方、稲佐浜に向かって歩いていくと、左側に墓地があります。出雲阿国の墓は特別に石欄で囲った平たい自然石で作られています。今でも芸能関係者や歌舞伎ファンなどの参拝者があります。

## 11 弁天島

稲佐浜に一際目立つ島があります。古くは沖御前といひ、遙かな沖にありましたが、砂浜が埋まって歩いて島まで行けるようになりました。神仏習合の豊玉毘古命が祀られていましたが、今は豊玉毘古命を祀っています。地元の人には「べんてんさん」と呼び親しまれています。祭神の豊玉毘古命は綿津見神とも言われ、海を中心として信仰されています。

## 3 連歌庵



晩年の阿国は大社に帰り都人の人気をあつめた昔日の華やかな日々を思い出に出家して「智月」と称し、連歌とお経を唱えてその生涯を終えたとされています。阿国の往時が偲ばれる庵です。

## 4 蔵の美術館(手鏡記念館)



酒蔵と米蔵を利用し、出雲地方の美術品や伝統工芸品を展示しているミュージアムです。庭園も美しく、静かな空間で豊かな時間が楽しめます。出雲地方の暮らしと文化を知ることができます。

## 6 奉納山



中世のころ迦国聖(いかこひじり)は、全国667国の聖地に経文を埋納しました。出雲ではこの山に奉納したので奉納山と呼ばれるようになりました。奉納山公園の頂上からの展望はすばらしく、国引き神話にある島根半島をつなぎとめる杭として使った三瓶山や、国引きに使った綱が変化したと言われる園の長浜や稲佐浜を一望することができます。

## 10 稲佐浜



毎年旧暦10月に全国の神々が出雲に到着されるところで、神迎への神事が催されます。また、この砂浜は国引き神話や国譲り神話など多くの神話に登場する古代からの神聖な場所です。